

関西大学文学部総合人文学科

# 国語国文学専修

二〇二五年度 専修案内

# 目次

---

## 専修紹介

---

1. ようこそ！	1
2. 何が学べる？	3
3. カリキュラムは？	4
4. 取得できる資格	8
5. 関西大学国文学会	9
6. 先輩たちの声	10

## 教員紹介

---

国語学コース	12
乾 善彦	12
森 勇太	13
日高 水穂	14
国文学コース	15
村田 右富実	15
松本 大	16
岸本 理恵	17
大島 薫	18
山本 卓	19
関 肇	20
増田 周子	21
個人研究室一覧	22

---

# 1. ようこそ！

---

---

## 「国語国文学専修」とは？

---

わたしたちは、満天の星空を目にしたとき、思わず「きれい」とか「すごい」ということばを口にします。また、突然大きな犬に吠えられた時には、「こわい」と思うでしょう。いくら英語が得意でも、不意の出来事に思わず口に出たり、心で思ったりする場合には日本語になるものなのです。このようにわたしたちは日本語で話し、日本語を使ってものごとを考えているのです。近年、おびただしい外来語（カタカナ語）が日常生活に満ちあふれていて、「近い将来には日本語がなくなるのでは」と危惧する人がいますが、決してそのようなことにはなりません。たとえば、次にあげるのは、今から百年ほど前の明治時代の終わり頃に東京で流行した俗謡の一節です。

♪ イングランドのキャピタル ロンドンのリ  
ッチハウスのドータにて、  
エージはシックスステーン 名はペイン、ジャ  
パニーズカラにラブシク・・・♪

この歌には、「名」以外に日本語の名詞は使ってありませんが、助詞の「の」「にて」などは翻訳されていないので、純然たる日本語といえます。助詞・助動詞という骨組みの部分が変わらない以上は、いくら外来語を多用してもその文章は基本的に日本語なのです。

二十余年余り前までは、文学部を持つ全国の主要大学には、かならず「国語国文学科」（または「国文学科」）がありました。ところが、この十年ほどの間に、学科名を「日本語日本文学科」と改名する大学が増え、さらに語学と文学とを分離して、語学系が「言語文化学科」「比較言語学科」「言語情報学科」、文学系が「日本アジア文化学科」「比較文化学科」「アジア文学学科」などという他の近隣文学を包括した

名称に変えるところが多くなり、いまや日本の大学で「国語国文学科」という名称を名乗るところは少数派となってしまいました。

皆さんの中にも、関西大学の「国語国文学専修」という名称に「古い」という感じを受けた人がいると思います。しかし、決して「国語国文学専修」は古い名称ではありません。それを名乗るには次のような重要な理由があるので

---

## 「国語国文学」という専修名を 名乗る理由

---

すべてのことばには歴史があります。われわれが日常に使用している日本語も、おおよそ千三百年ほど前の奈良時代から、現在とそれほど違わないことばであったろうということが分かっています。しかし、それは程度の問題で、発音や語彙（単語）や表現などは相当違っていたと考えられます。仮に奈良時代のことばで会話することの出来る人がいたとしても、そのことばによって現代人と意思の疎通を図ることは相当困難であろうと思われる。同じ日本語であっても、千三百年の間にはさまざまな変化を遂げているのです。

日本語で書かれた作品を読み、解釈する際には、日本語がどのような変化を遂げてきたのか、また、表現がどのように変わってきたのかということを正確に知っていなければ正しい理解はできないのです。そういう意味で国語学と国文学は表裏一体をなす学問であるといえるのです。

かつて文学を介して中国民族の意識改革を試みた魯迅が、自分の知識を広めるための留学先に、欧米ではなく日本を選んだことは有名な話です。日本語さえ理解すれば、世界中の文学作

品が読めると考えたからなのです。というのは、その当時英国に留学すれば、英語で書かれた作品は読むことができても、フランス語やドイツ語やロシア語で書かれた作品はほとんど読むことができなかつたからです。ところが日本は、明治のはじめに欧米諸国と結んだ不平等条約を破棄するために、国を挙げて欧米文化を取り入れようとしていました。そこで、文化のバロメーターである欧米文学が重視され、シェイクスピア（英国）やスタンダール（仏）やツルゲーネフ（露）などの文豪の作品は、いち早く「原作に忠実に」日本語に訳されるようになっていたのです。ただ、生活様式や文化の異なる国の作品を「正しく」翻訳するには、語学だけの能力がいくら優れていても、文学的な解釈が伴わなければ、まるで法律文を読むような無味乾燥の文章になってしまいがちです。明治時代の翻訳作品が難解であるのはそのためなのです。

そこで、語学と文学の一体性を示す具体的な解釈例をもって、国語学と国文学とが不可分の関係の学問であることの証明をしたいと思いません。

---

## 文学と語学の接点

---

芥川龍之介に「手巾（ハンケチ）」という小品があります。夭折した息子が在学中に世話になった先生の許に、そのお礼を述べに行った母親の様子を述べた内容です。書齋に通された母親は、まるで時節の挨拶をするように、時には笑みさえ浮かべた穏やかな顔で先生にお礼を述べていますが、先生の視線の届かない机の下では、ハンケチを千切れるほど強く握って悲しみを堪えているという姿が描かれています。

欧米文化の影響で、喜怒哀楽の感情は我慢しないでそのまま顔に出すという習慣に慣れてしまった現代人には、人の前で<sup>おえつ</sup>嗚咽したり絶句したりすることによって悲しみを表出した方が、より人間的であるというように考えてしまいが

ちです。しかし、その解釈ではこの作品の意図を理解したことにはなりません。作者はことばによる表現ではなく、握りしめたハンケチの様子で母親の深い悲しみを表しているのです。さらに、感情を表に出さないという日本の伝統的な慣習を身につけた母親の、せつないまでのつつしみ深さを淡々と叙述しています。

勘違いや悲劇に会ったときには、他人からの非難に対して言い訳をしないで、素知らぬ顔でその悲しさにじっと耐えることが、我が国では美德であるとされてきました。例えば、源氏のため、兄の頼朝のために命懸けで戦ってきた義経は、その兄からうとまれて謀殺されています。今も残っている「判官びいき」ということばも、義経の耐え忍ぶ姿への庶民の共感から生じたものなのです。「私はこんなにも不幸です」と自己主張することは「はしたないこと」とたしなめられてきました。

ことばは社会環境の変化の中でいろいろと変化します。先の喜怒哀楽関係の語彙のうち、怒りを表すことばに「腹が立つ」という表現がありますが、若者たちの話しことばでは「頭にくる」というようになりました。ところが、最近ではそれに「ムカつく（この場合は、片仮名表記）」という表現もされるようになりました。怒りの表現に「腹」を使うのは、そのほか「腹の虫がおさまらない」「腹にすえかねる」など多くありますが、これは「腹」という語彙が「腹巻き」のような腹部の場合にも、「腹痛」のような内臓の場合にも、「腹八分目」「腹時計」のような比喩の場合にも使われるというように、身体語彙の中でも特に漠然とした曖昧な意味領域を特持っていることと関係があると思われます。ですから、なにごとも「腹」ですましていたものなのです。しかし、最近のせちがらい生活環境では「腹に収めておく」などという精神的余裕がなくなり、身体の中で感情が即座に反応する「頭」が取ってかわったのです。さらに、「腹」「頭」のような身体語彙から「吐き気」を表す病理語彙の「ムカつく」にかわってきたのは、

より強い嫌悪感の表出といえましょう。ひたすら耐えて喜怒哀楽を顔に表さなかった文化が変化するとともに、身近な表現もこのように変化してしまうのです。

上にあげたのは、ほんの一例です。国語国文学専修では、このように古典文学や近現代文学

の作品や日常的な文章などを通して、普段使っている何気ない表現などの分析やその成り立ち、変化の要因などを考えていこうということで、学生諸君の多様なニーズに応えるべく、多くの講義科目を用意しています。

(遠藤 邦基・国語国文学専修 元教授)

---

## 2. 何が学べる？

---

国語国文学専修は、日本語や日本文学を題材として、日本人の精神や日本文化の有り様について考えます。

高等学校あるいは小・中学校における「国語」の授業では、教科書に掲載された文章を読んで、作者が何を意図して執筆したのか読み取ったり、漢字や文法を暗記したりしていたのではないのでしょうか？ またとくに「古文」は、古語文法と主要単語の暗記を強いられ、忠実な口語訳を行うことに追われていたのではありませんか？

国語の教員を目指す学生が、教育実習先の学校でこんな質問をされたそうです。

「普段から使っている日本語を、学ぶ必要なんてあるのかな？」

「どうして、現在使っていないことばを学んで、昔の人が書いた文章を読まなければならないの？」

みなさんも同じような疑問を感じたことがあるかもしれません。しかし、大学で学ぶ「国語学（日本語学）」や「日本文学」は、高等学校までの「国語」とは異なります。

たとえば「日本語」について考えてみましょう。みなさんが暗記した古語文法（主要単語も）は、少しずつ、現在使っていることばに変化していったのです。もちろん、その変遷には、日

本人がどういったことばを必要とし、どういった性質のことばを好み、使用しようとしたかに関わっているわけで、そこには、日本人の言語感覚や、言語に表象される精神が隠されているのです。

「日本文学」も同様です。作者が生きた時代、その当時の学問（教養）や倫理観・宗教、そしてもちろん歴史的背景など、作者が生活していた時代の文化的環境を迫体験しなければ、作品を解釈することなど不可能です。逆に言えば、作品を読み解くことで、作者が生きた時代を知ることが可能になるわけです。古典文学（もちろん夏目漱石や森鷗外・芥川龍之介の小説も）のように、長い年月をかけて読み継がれてきた作品は、作者だけでなく、時代・時代に読者が存在し、現在に至っています。過去から現在までのさまざまな時代を生きた人々の「想い」が、これらの作品を伝えてきたのです。日本人の精神史を辿る題材であることにも気付かされます。

国語国文学専修は、総合的な視点をもって日本人や日本文化を考え、わたしたちが生活する「日本を知る」ことを教育目標とする専修です。国際化が進むなか、さまざまに問われる「日本」について学んでいきます。

### 3. カリキュラムは？

国語国文学専修の専門教育科目

	専修固有（必修）科目	専修関連（選択）科目	
1年次		国語学概論 a・b 国文学史概説 a・b 日本語教育概論 日本語教授法	
2年次	国語国文学専修ゼミ I 国語国文学専修ゼミ II 国語国文学専修研究 I 国語国文学専修研究 II	国文学作品研究（一） a・b 国文学作品研究（二） a・b 国文学作品研究（三） a・b 国文学作品研究（四） a・b	
3年次	国語国文学専修ゼミ III 国語国文学専修ゼミ IV 国語国文学専修研究 III 国語国文学専修研究 IV	国文学作品研究（五） a・b 国文学特殊講義 a・b 日本語学 I a・b 日本語学 II a・b	日本語教育実習
4年次	国語国文学専修ゼミ V 国語国文学専修ゼミ VI 卒業論文	日本語表現論 日本語教育方法論 日本語教育授業分析	

国語国文学専修のカリキュラムは、さまざまなジャンルの作品や日本語・文化事象に関することがらを、奈良時代から現代まで、通時的に幅広く学ぶことを目指して構築されています。

国語国文学専修には、「国語学」と「国文学」の2つのコースがあります。

**国語学コース**は日本語自体を研究対象とし、その成立や実態についての分析・考察を行います。音声・音韻や文字表記、書きことば・話しことばなど、日本語を多角的に研究します。

**国文学コース**には時代ごとの下位区分がありますが、それは世界史のわけ方とは少し異なります。日本文学史の時代区分では、「上代・中古・中世・近世・近現代」にわかれます。「上代」とは奈良時代以前で、作品でいえば『万葉

集』『古事記』『日本書紀』などが代表的なものです。「中古」は王朝時代ともいいますが、平安時代を中心としたもので、『源氏物語』『伊勢物語』『古今和歌集』などが代表的な作品です。「中世」は鎌倉時代から室町幕府の滅亡までを指し、わたしたちは戦国時代をも含めて考えています。代表的な作品には『平家物語』『徒然草』がありますが、能楽（能と狂言）もこの頃の成立となります。「近世」は江戸時代を中心としたもので、作品をあげるよりは、松尾芭蕉（俳諧）・井原西鶴（浮世草子）・近松門左衛門（歌舞伎・浄瑠璃）・上田秋成（怪談）・滝沢馬琴（読本）といった作者をあげる方がわかりやすいでしょう。「近現代」は明治維新以後、現代作家までを扱います。これをさらにわ

けると戦前・戦後ということになります。作家は、芥川龍之介・宇野浩二・開高健等々と数えきれません。

---

## 1年次の科目の概要

---

1年次配当科目には、文学部共通専門教育科目の学びの扉、知へのパスポートのほかに、国語学概論、国文学史概説、日本語教育概論、日本語教授法があります。国語学の基礎を学ぶ国語学概論と、日本文学を種々の視点から捉え直す国文学史概説は、日本語や日本文学から何を学ぶか・何を知ることが可能であるか考える講義科目です。国語国文学専修に所属する人や国語の教員、日本語教師を目指す人は言うまでもありませんが、日本、さらには日本人の精神を考える手がかりを得るためにも、履修することをすすめます。

国語国文学専修に所属することを希望する場合は、同時に、「国語学」コースと「国文学」コースのいずれで学ぶかを選択します。

---

## 2年次の科目の概要

---

2年次では国語国文学専修ゼミⅠ・Ⅱ、国語国文学専修研究Ⅰ・Ⅱを通して国語学や日本文学を学ぶ基礎的な知識を身につけます。いずれもテーマに即した研究をいかに行うべきかを理解し、卒業論文のテーマを設定するために重要な科目です。

また、国文学コースでは、国文学作品研究(一)～(五)および国文学特殊講義で、幅広いジャンルと文化事象について、奈良時代から現代まで、通時的に考えていきます。

国語学コースでは、日本語学Ⅰ、日本語学Ⅱ、日本語表現論を開講します。いずれも各時代、各分野を通じて、さまざまな観点から国語学・国語史を考えてゆく科目です。

さらに、日本語教師養成を目的とした科目として、2年次生には日本語教育方法論、日本語教育授業分析を開講します(日本語教師養成講座については9頁を参照してください)。

---

## 3年次の科目の概要

---

国語国文学専修ゼミⅢ・Ⅳは学生の研究発表を中心として行われる少人数クラスの科目で、学生一人一人が主体性をもって研究を進めることとなります。専修ゼミのほか、国語国文学専修研究Ⅲ・Ⅳが必修科目になります。また、日本語教師養成を目的とした日本語教育実習を3年次に開講します(日本語教師養成講座については9頁を参照してください)。

また、下位年次配当の科目も履修することが可能です。通常、3年次になれば時間的な余裕ができるはずですが、2年次で履修できなかった講義科目、さらには他専修が提供する科目を履修することで、より幅広い知識を身につけることをすすめます。

---

## 4年次の科目の概要

---

4年次生の必修科目は国語国文学専修ゼミⅤ・Ⅵで、担当教員の指導の下で卒業論文を作成します。卒業論文は4年間の総決算ですので、自らが設定したテーマについて、たのしみながら追究してください。

## 《卒業論文題目(抜粋)》

### 【2022 年度】

#### <国文学コース>

- 『とりかへばや物語』における異性装—女君と男君との性差を考える—
- 『鬼滅の刃』の人物造形—人気キャラクター・富岡義勇の場合—
- 『和泉式部日記』に見る敦道親王—橘の贈答をめぐって—
- 中野重治『五勺の酒』論—未練の内実と戦後日本—
- 安岡章太郎「海邊の光景」論—<タヨリない>男たち—
- 『南総里見八犬伝』におけるジェンダーと獣性
- 川端康成『千羽鶴』論—心理的呪縛の対比構造と<運命>について—
- 坂口安吾「戦争と一人の女」「続戦争と一人の女」論—語り手の鏡と化す野村と「女」—
- 「鉢かづき」論—母親の意志を象徴する「魔法の鉢」—
- 井原西鶴『男色大鑑』における武士の衆道と死
- 森茉莉『甘い蜜の部屋』論—宗教的モチーフと聖書パロディ—
- 『更級日記』における浮舟と夢—作者と作中の<孝標女>をめぐって—
- 万葉のカゲ
- 平安散文作品における「鬼」の描き方—『伊勢物語』第六段のリアリティー—
- スサノヲの本質について
- 書簡としての『梅花の歌三十二首』
- 宮本輝『道頓堀川』論—道頓堀とその人々が持つ性質・力について—
- 曾根崎心中に見る心中の原因と意義—遊女お初を中心に—

#### <国語学コース>

- 副詞「ずっと」の歴史的変遷
- 『サマータイムマシン・ブルース』におけるセリフの「舞台らしさ」—映画と舞台のセリフを比較して—
- 推量表現の使用実態—ダロウ類・トオモウ類

・否定疑問類を中心に—

- 滋賀県長浜市若年層の素材待遇語の動態—(ヤ)アルと(ヤ)ンスに注目して—
- 近畿地方における副詞「また」の意味拡張について
- 引用の格助詞「と」と読点の位置関係について
- 中国語における日本語借用語—ネット用語を中心に—

### 【2023 年度】

#### <国文学コース>

- 『土佐日記』の表現に関する研究—『古今和歌集』を手がかりに—
- 黄表紙における「化物」「妖怪」のキャラクター性—「豆腐小僧」を中心に—
- 円地文子「花散里」論—女の中の魔物について—
- 灰谷健次郎『少女の器』論—緋の自立を促す「家族」と「他者」、そして「器」の形成—
- 『古今和歌集』の景物詠—表現の特徴とその背景—
- 『枕草子』の藤原行成が持つ役割について
- 『男色大鑑』の魅力—「傘持つてぬるゝ身」を中心に—
- ものを言う動物たち—『今昔物語集』に所収される動物説話をめぐって—
- 軽薄の人は誰なのか—『菊花の約』における矛盾の考察—
- 『とりかへばや物語』における宰相中将論
- 万葉集の「咲く」
- 『古事記』における反逆
- 三善清行の怪異譚—『今昔物語集』巻二十七「三善清行宰相家渡語第三十一」をめぐって—
- 山田尚子監督作品アニメーション『平家物語』の構想
- 『源氏物語』六条院における明石の君と描かれる季節
- 三島由紀夫『午後の曳航』論—小道具の役割



を中心として—

- 村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』論—  
触覚のイメージと母親たち—
- 『蜻蛉日記』研究—序文を起点にして—
- 岡本かの子『花は勁し』論—かの子の秘めたる理想—
- 笠金村「入唐使に贈る歌」論
- 安部公房の作品における植物のモチーフに関する考察—植物化による理想的存在への接近—

### ＜国語学コース＞

- 感動詞性を獲得した動詞タ形について
- ニュース番組にみられる「～です」表現に関する研究
- ポスターのキャッチコピーとレイアウト—資生堂ポスターの表現性—
- 第二言語から第一言語へ言語の転移と中間言語考察（作文を中心として）
- 奈良県大和高田市方言の素材待遇語（ヤ）イスの形態と運用法に関する記述的研究
- 味覚形容詞語彙の意味拡張における歴史的変遷
- 衣類に関する助数詞「枚」「着」について
- 大阪府・奈良県における公立高等学校の校歌の歌詞について

---

## 4. 取得できる資格

---

国語国文学専修で学んだ先輩たちは、関西大学に在学中に取得した、次のような資格を生かして活躍しています。

---

### 教育職員免許状（中学校教諭・高等学校教諭：一種・国語）

---

中学校・高等学校の教育職員免許状を取得するには、各学部の教育課程と、教育職員免許法に定める科目を修得します。国語国文学専修では、中学校と高等学校教諭一種（国語）の教育職員免許状を取得することができます。

さらに大学院に進学し所定の単位を修得すると、専修免許状を得ることができます。

---

### 司書

---

図書館（国・公・私立）で専門的職務に携わるために必要な資格です。本学には司書課程が設置されていますから、図書館法に定める科目を修得すれば司書資格を取得することができます。

---

### 司書教諭

---

学校図書館で専門的職務に携わるために必要な資格です。教育職員免許状を取得することを前提として、文部科学大臣の委嘱を受けて大学（本学も含まれます）が行う講習（学校図書館司書教諭講習規定に定める科目）を修了すれば、司書教諭資格を取得することができます。

---

### 学芸員

---

博物館におかれる専門職員で、博物館資料の収集、保管、展示および調査研究、その他の関連事業について専門的事項に携わります。本学には博物館学課程が設置されていますから、所定の科目を修得し、学士の学位を取得すれば、学芸員資格を得ることができます。

---

### 社会教育主事

---

社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える専門職員として、都道府県や市町村の教育委員会に設置されています。本学には社会教育課程が設置されていますから、社会教育法に定める科目を修得すれば、社会教育主事に任用される資格を与えられます。

---

### 小学校教員に興味がある人は：

---

関西大学で小学校の教員の資格を得るには、二つの方法があります。

- 1) 1年次または2年次から初等教育学専修に所属して勉強する。
- 2) 神戸親和女子大学との提携による通信教育制度を利用して資格を得る。

つまり、国語国文学専修に分属しても、みなさんの努力次第で小学校教員の資格を得ることが可能なのです。実際に、この制度を利用して資格を取得し、小学校教員として活躍している先輩もいます。

## 日本語教師に興味がある人は：

日本語教師は、日本語を母語としない人に日本語を教える仕事です。日本語を母語としない人々に日本語を教授できるようになるには、日本語の発音、表記、語彙、文法についての知識と、日本語の歴史や位相差（使用者によることばの違いや場面による使い分け）についての理解も必要です。この分野を中心にとくに専門性を高めていくのが、国語国文学専修の国語学コ

ースです。

文学部で開設している日本語教師養成講座では、以下の授業科目を履修し、所定の単位を修得した学生に対し、文学部の発行する成績証明書に、同講座を修了したことを明記します。

2024年度から**国家資格である登録日本語教員制度**が開始されました。日本語教師に関心のある人は、日本語教師養成講座で日本語教育の基礎を学び、登録日本語教員をめざしましょう。

( )内単位数 \*必修科目

分野	科目名	必要単位数
社会・文化・地域	*日本語教育概論(2) 総合人文基礎講義(各テーマ)	4 単位以上
言語と社会	専修横断講義(各テーマ) 専修横断演習(各テーマ)	
言語と心理	第二言語習得論(2) 教育心理学(2) 教育と文化の社会学(2) 教育人類学(2) 発達心理学a(2) 発達心理学b(2)	4 単位以上
言語と教育	*日本語教授法(2) *日本語教育方法論(2) *日本語教育授業分析(2) *日本語教育実習(2) 日本語表現論a(2) 日本語表現論b(2) 各外国語科教育法(2)	10 単位以上
	ICT ベーシックス(2) メディア教育論(2) 情報メディアの活用(2) 情報社会と研究倫理(2)	2 単位以上
言語	*言語学研究(2) *国語学概論a(2) 国語学概論b(2) 日本語学 I a(2) 日本語学 I b(2) 日本語学 II a(2) 日本語学 II b(2)	8 単位以上
合計		28 単位以上

## 5. 関西大学国文学会

国語国文学専修には、会員で構成される関西大学国文学会があります。本学会は1924年、専門部に文学科が設置されてすぐに活動を行い、1934年には、関西大学国文学会叢書を刊行しました。その後、学会の体制を整え、創立記念大会は、1948年に文学部に国文学科ができた翌年に開かれました。2019年現在、実に90年以上の伝統ある学会です。長年の間、定期的に年2回（7月・12月）の大会と懇親会を開催し、機関誌である『国文学』を発行してきました。最近「彙報欄」を設け、現在の国語国文学専修の

様子や行事などの紹介もしています。『国文学』には、故澤瀉久孝、故清水好子、故岡見正雄、故中村幸彦、故谷澤永一関西大学名誉教授ら国語国文学界を牽引してきた諸先生方をはじめ、学部学生や大学院生などの研究者が執筆し、国内外からも注目を集めてきました。

さらに、本学会は、「谷澤永一名誉教授を偲ぶ会」などの記念事業を開催し、記念誌の発行もしてきました。こうした学会の活発な活動は、会員同士の交流を深め、国語国文学研究の発展をうながしています。

---

## 6. 先輩たちの声

---

---

### 在学生から……

---

高校の古典だけでは足りない！歌枕の近くでもっと学びたい！これは私が国文学専修を選んだ理由です。ひとくちに国文学専修といっても、万葉集や源氏物語など上代～中古の作品を深く読み解く先生から、近現代の文豪を研究されている先生までいらっしゃいます。専門とされている時代はバラバラです。迷っているなら、まずは自分が興味のある分野を分析してみてください。先生方の熱のこもった授業を受けているうちに、ふと気づけば新しいジャンルに夢中かもしれませんね。私自身、大学で勉強するまでは、魅力的に感じていなかった作品に興味を持ち始めています。一歩足を踏み入れてみないと何が起きるか分からないのです。私の友人には読み書きが好きで国文学専修を選んだという人もいれば、友達に誘われたからという人もいます。きっかけは人それぞれですし、興味のある分野も異なります。だからこそ、私は、国語国文学専修は自分だけの「面白い」を見つけられる場所だと考えています。私たちと一緒にまだ見ぬ文学の世界へ飛び込んでみませんか？

井上優(2019年度入学・国文学コース)

\* ... \* ... \*

私は国文学を学ぶ中で、一つの事柄でも捉え方には個性があり、自分一人の思考力では見つけられない視点があることを身をもって知りました。

私が所属している近代文学のゼミでは、自分で選択した作品について調べたことや自身の解釈といったものを発表し、他のゼミ生と質疑応答などを通じて議論をします。そこでは、充分やり尽くしたと思っていた研究の盲点に気付かされたり、思いもよらない観点や疑問に出会うことが沢山あります。それらに触発され、新た

な着想を得ることもありました。

文学には明快な正解は殆ど存在しません。社会と同様に考える人の数だけ疑問や解釈が存在します。

そして、自身とは異なる主張に触れながら思考し、議論をするという経験は大学以外での他者とのコミュニケーションの場でも大いに役立ちます。

文学研究は決して孤独なものではありません。新入生の皆さんにもこうした他者との意見交換による発見や学問と社会の繋がりを国文学を通して経験して欲しいと思います。

加藤綾(2019年度入学・国文学コース)

\* ... \* ... \*

みなさんは国語学とは何か知っていますか。多くの人は普段何気なく、当たり前のように日本語を話しているのに、日本語について深く考えたという経験は少ないかもしれません。しかし、実は日本語について考えることはとても奥が深いのです。そして、そんな日本語を研究するのが国語学です。例えば、ら抜き言葉はなぜ生まれたのだろう。昔の日本人はどのような日本語を話していたのだろう。日本には、どのような方言があるのだろう……。少し考えただけで、興味深い謎がたくさん思い浮かびます。国語学コースではこのようなことを、実際にアンケートを取って調査したり、辞書や文献を調べたりして研究しています。

日本語に興味のある方は、ぜひ国語学コースにいらしてください。また、日本語教師を目指す人や、国語科の教員免許の取得を目指している人もいます。国語学コースではより深く日本語のことを学べるので、これらの職業に就きたい人、資格を取得したい人にもおすすめです。

坪井菜央(2019年度入学・国語学コース)

---

## 卒業生から……

---

私は主に中古文学に興味があり、国語国文学専修に入りました。高校時代の古典の授業とは違って、作品の解釈の多様性や奥深さを学ぶことができました。3年次には卒業論文に向けての合宿セミナーがあり、4年次にはゼミで旅行に行ったり、楽しく充実した学校生活でした。

国語国文学専修で学んだことを活かして、今は高校の国語科の教員として働いています。大学で学んだ古典の文化や知識を交えながら、生徒たちに古典の奥深さを感じさせ、学ぶことへの興味を引き出そうと毎日努力の日々を送っています。

大学を卒業し、社会人となり、大きく環境が変わりましたが、私にとって大学で学んだことは大きな財産であり自信にもなっているので、思い出と自信を胸に頑張っていきたいと思っています。

大学の4年間は本当にあつという間です。関大生のみなさんには多くの仲間と、たくさんのかたちを経験し、学び、充実した大学生活を送ってほしいです。

**磯田真衣(2016年3月卒業・中古文学専攻、  
大阪府立堺上高等学校教員)**

\* ... \* ... \*

在学中は近現代文学を研究していました。卒業論では辻村深月『凍りのくじら』を選択。先行研究はありませんでしたが、その分やれることの幅も広がるので毎日新しい発見があってドキドキしたことを覚えています。

大学を卒業すると、一つの作品について議論する機会はなかなかありません。だからこそゼミでは自由に発言し、自分一人では得られない視点に出会うことが大切だと思います。「思いついたことはとにかく誰かに伝える」をモットーにしたことで、議論が好転することもあったのでオススメです。ゼミで誰かと意見しあった経験は社会人になってからも役に立つので、臆

せず発言することが大切だと感じました。

卒業後は念願の出版社で働いています。初めてゲラを読んだときのドキドキを読者に届けるにはどうすればいいのか。多くの人が手に取るには何が必要なのか。そんなことを考えるとき、文学で新しい発見に気づいたときのワクワクを思い出します。思いもよらない経験が大きな結果となることもあるので、一つひとつの出来事をぜひ大切に過ごしてください。

**福井しほ(2016年3月卒業・近代文学専攻、  
朝日新聞出版勤務)**

\* ... \* ... \*

ことばの使い方などで悩んだことはありませんか？

「間違っていないかな」と思ってネットや辞書で調べたことがある人は少なくないはずですが、では、どうして悩んでしまうのでしょうか。「間違いだ」と書かれていたとしたら、どうして間違いだといわれるのでしょうか。どうしてその「間違い」を使ってしまうことがあるのでしょうか。その原因を探求するのが、国語学コースです。

私たちはことばを毎日話したり、聞いたり、あるいは、書いたり、読んだりしています。ことばは、私たちにとって本当に身近な存在です。身近だからこそ気づいていないこともあるでしょう。現代語だけではありません。古代語からどうやって意味が変わったのか、方言や文法・表記……等々、様々な観点があります。

私は、そういう身近にあることばの面白さに取りつかれて大学院に進学し、いまは日本語の文字やその使い方について研究しています。誰もがことばを使います。ことばに興味があれば誰でも勉強できます。みなさんも身近にあることばの疑問を探求してみませんか。

**山口翔平(2016年3月卒業、2016年4月本  
学大学院入学・国語学専攻)**

# 国語学コース

---

乾 善彦 (いぬい よしひこ)

- ◇専門分野 国語学：古代語・日本語史研究
- ◇オフィスアワー 月・火 昼休み (12:10～13:00)
- ◇Eメール inuy@kansai-u.ac.jp
- ◇担当科目 日本語を学ぶ・国語国文学専修研究・国語国文学専修ゼミなど

---

## 主な研究分野

国語学の中でも、とくに文字論・文字史に興味があります。なぜ、現代日本語の表記は、漢字ひらがな交じりの方法をとるのでしょうか？漢字は表語文字（表意文字）だから、意味がわかって便利だと皆さん答えますが、英語にしても、韓国語にしても、表語文字（表意文字）を使わなくても、何不自由なく書くことが成立しています。理由が考えられるとしたら、それは日本語を書こうとした人々が、漢字と格闘してきた歴史の中にあると思います。そんなところが、文字を扱うことの魅力です。こんな、何気ないことに疑問を持つことから、研究ははじまるのです。

---

## 担当科目の概要

国語国文学専修研究Ⅰ・Ⅱでは、江戸時代の絵入り本をとりあげて、文字とことばとの関係、絵を含めてことばを書くことのいとなみについて考えていきます。また、どのようにことばを書くかという書き方を選択することの意味についても考えたいと思います。

国語国文学専修ゼミⅢ・Ⅳでは、「漢字による文字遊び」をとりあげて、日本語における漢字のかたちの認識と位置付けをさぐりながら、昔の人がどのような漢字を使って、ことばを書きあらわそうとしていたのかを、読み解きたいと考えています。

---

## 1年生へひとこと

最近、世の中が非常に窮屈になってきているように思います。そんな時代に、自分の使っていることばについて、あるいはその歴史について研究することに、どのような意味があるのでしょうか。もしかしたら、大きな意味があるかもしれないけれど、何の意味もないかもしれない。それよりは、今を生きるために重要なことはいくらかもあるかもしれない。でも、わたしは自分のことばについて、もっともっと知りたいのです。そしてそれができることを、とても嬉しく思います。戦争に行ったらそんなことできませんものね。お金儲けしようと思ったら、そんなことしている暇はありませんものね。一見ムダだと思われる中に、なにか大切なものを見つけてほしいと思います。それが大学生にしかできないことだと思うのです。

---

## おすすめの図書

どの授業の参考文献にもあげていますが、平凡社ライブラリー『日本語の歴史』（全7巻）は、ぜひ読んでほしいものです。内容もさることながら、歴史を語るということの楽しさが存分に味わえるすぐれた文学作品です。知的興味が掻き立てられるというのはどんなものか、ぜひ経験してもらいたいと思います。

## 森 勇 太 (もり ゆうた)

専門分野	国語学：近代語・日本語史研究
オフィスアワー	火・木 昼休み (12:10～13:00)
Eメール	moriyuta@kansai-u.ac.jp
担当科目	国語学概論・国語国文学専修研究・国語国文学専修ゼミなど

### 主な研究分野

広く言えば日本語の文法の歴史を考えていますが、中でも、敬語の歴史や依頼・命令など相手に対して配慮が必要な際の言葉遣いについて研究しています。現代語の「なさる」は尊敬語ですが（「先生いつ出張に出発なさるんですか？」）、その命令形「～なさい」は「勉強しなさい！」というように、親から子へ、先生から生徒への命令に使われることが一般的です。しかし、その表現に直接対応する平安時代の尊敬語「たまふ」の命令形「～たまへ」という表現は、目上の人物への丁寧な依頼として用いることができます。このように、同じような言葉遣いでも今と昔で使われ方が違うという事例はたくさんあります。このような「ことばの使い方のルール」の歴史を明らかにしようと考えています。この分野は「歴史語用論」と呼ばれていて、現在新しい研究分野として注目を集めています。

### 担当科目の概要

文献の読解からスタートして、日本語の文法・語彙の歴史について調査する手法を学びます。国語国文学専修ゼミⅢ・Ⅳでは、『大蔵虎明本狂言』『天草版伊曾保物語』などを資料として、中世のことばについて調査・研究します。中世語は、国語（古典）の授業でなじみ深い古代語から現代語に変化するまでの重要な転換点です。中世語の観察を通して、古代語と現代語の共通点や相違点、また言語変化のありようについて考えます。

### 1年生へひとこと

「歴史は繰り返される」。私が日本語の歴史を研究してきた中で、何度も感じたことです。現代でも若者の言葉に対して「敬語の使い方がなってない！」と怒る人がいますが、平安時代でも清少納言が、丁寧語「はべり」が使えない人に対して苦言を呈しています。中世には、〈ぜひとも〉の意味を表す「有無に」「善悪」という副詞があります。変な言い方だな、と思うかもしれませんが、〈あり／なし〉〈良い／悪い〉という反対のことを組み合わせているのは現代語の「ぜひ」〈是＝正しい／非＝正しくない〉も一緒ですね。

日本語の歴史を学ぶことは、「今」の日本語に起こっていることを客観的に理解するために欠かせないものだと思います。

### おすすめの図書

#### ○『舟を編む』（光文社文庫）

映画、アニメにもなった三浦しをんさんの小説。「玄武書房辞書編集部」のお話です。辞書に載せる意味を考える過程は、まさに研究の手順そのものです。言葉の意味ってどのように考えていくのだろうか？と疑問に思っている人にオススメの一冊。

#### ○『日本語は親しさを伝えられるか』（岩波書店）

朝のあいさつ・敬語など身近な話題を例に、日本語がどのようにして人間関係を表すか、人間関係の表し方がどのように変わってきたのかを明らかにしています。「関西方言が日本語を変える？」という問題提起も。

## 日高水穂（ひだか みずほ）

専門分野	国語学：現代語・社会言語学・方言研究
オフィスアワー	火・木 昼休み（12:10～13:00）
Eメール	hidaka@kansai-u.ac.jp
担当科目	国語国文学専修研究・国語国文学専修ゼミなど

### 主な研究分野

現代日本語文法の記述的研究を出発点とし、方言文法の対照研究を行っています。方言を観察していると、「ことば」が変化することであることを目の当たりにします。変化のきっかけは、「ことば」そのものにある場合と、それを使用する社会にある場合があります。そうしたことから、最近は、ことばの社会的機能にも関心をもっています。

### 担当科目の概要

現代日本語の多様性をとらえるための実証的な調査と分析の方法を学びます。現代語の調査方法には、自分自身の言語使用を観察する内省法、アンケートやインタビューによる質問調査法、言語作品や自然談話を資料とした用例採集法などがあります。いずれの方法による場合も、根拠となるデータを十分に集め、それをさまざまな角度から検討する必要があります。ゼミでは、各自で調査項目を定めてデータを収集し、分析結果を検討します。

### 1年生へひとこと

「ことば」には規則があります。「ことば」が通じる、ということは、その規則を相手と共有している、ということです。一方で、古典語と現代語が異なるように、また、現代語の中でも、地域によって、世代によって、異なる「ことば」が使われているように、「ことば」は変化します。規則があるのに、その規則をやぶってまで（通じなくなる危険性をはらみながら）、「ことば」が変化するのは、何かより合理的な、あるいは効果的な表

現を獲得しようという「流れ」があるのに違いありません。「ことば」に規則があるように、「ことばの変化」にも規則があるのです。

私たちは、ふだん自分が話している「ことば」についてあまり意識しませんが、まずは自分の「ことば」を観察するところから始めて、「ことば（日本語）」とその使用される環境（日本）とそれを使用する自分自身について考えてみてください。

### おすすめの図書

#### ○宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）

「あるく」「みる」「きく」の民俗学者宮本常一による、「ふつうの日本人」の生き様の記録です。フィールドワークによる記録が、地域性や時代性を読み取る「資料」であると同時に、記録者の視点を通じた「物語」でもあることが分かります。

#### ○真田信治『方言は絶滅するのか—自分のことばを失った日本人』（PHP新書）

本書のキャッチコピーは「マイ訛<sup>なま</sup>りでしゃべらへん?」。標準語も方言も言語としては対等です。日本語の多様性に気づく一書。

#### ○丸山圭三郎『ソシュールの思想』（岩波書店）

現代言語学の祖とも言われるスイスの言語学者ソシュール。まずは冒頭の「ソシュールの生涯とその謎」を読んでください。早熟の天才ぶりと晩年の苦悩。彼の苦悩の産物である「記号学」は、言語研究にとどまらず、現代人に新しい物の見方を与えるものとなっています。



# 国文学コース

---

## 村田 右富実 (むらた みぎふみ)

専門分野	国文学：上代文学
オフィスアワー	火・金 昼休み (12:10～13:00)
Eメール	m_mig@kansai-u.ac.jp
担当科目	国文学史概説・国語国文学専修ゼミなど

### 主な研究分野

---

『万葉集』を中心に、奈良時代以前の文学を研究しています。『万葉集』は、「現存する最古の歌集」ということばとセットになっているように、ひらがなやカタカナがまだ発明されていない時代に漢字だけで記された歌集です。その歌数は約四千五百首。今からおよそ千三百年近くも前の歌がこれほど沢山残っている言語は地球規模で見てもそうありません。

そして、万葉歌は、それまで声に出していただけの歌が文字として書き留められた最初です。子供が文字を覚えると急に表現の幅が広がるように、当時の歌も大変革期を迎えていました。文字を獲得することによって歌はどう変化したのでしょうか？その変化に大きな関心があります。

### 担当科目の概要

---

国語国文学専修ゼミでは、『万葉集』の写本の扱い方に慣れるとともに、漢字で書かれた日本語を読む基本を学びます。

国文学史概説では、人間にとって歌は何であるか？歌がどのように発生したか？という根源的なところから、平安時代までの歌の歴史について学びます。

### 1年生へひとこと

---

中高時代、古典嫌いではありませんでした

か？少なくとも僕は嫌いでした。文法を覚えるくらいだったら、立たされた方がよいと。でも、大学に入って、その感覚は消えました。人はどうして歌うのか？人間にとって歌とは何か？そんな基本的、かつ根源的な問いが目の前にあります。勿論、そんなに簡単に答えの出るものではありません。でも、一緒に考えてみませんか？

### おすすめの図書

---

#### ○『よみたい万葉集』（西日本出版社）

自分が監修した本なので、お勧めしにくい面もありますが、初めて『万葉集』に触れる人をターゲットに書きました。文法や時代背景の知識は後回し。まずは歌を読んでみよう。

#### ○リチャード・アダムズ『ウォーターシップ・ダウンのウサギたち（上・下）』（評論社）

神話がどのように形作られて行くのか。神話は何故必要なのか。ウサギたちの「出エジプト」の書でもあるこのファンタジーは、神話を考える際のよき伴侶です。

#### ○都出比呂志『古代国家はいつ成立したか』（岩波新書）

この国に「国家」が成立したのはいつでしょう？三世紀説、五世紀説、七世紀説があって、七五三論争とも呼ばれています。結論はさておき、『万葉集の時代』へと向かう日本列島は刺激的です。

## 松本大（まつもと おおき）

専門分野	国文学：平安朝の文学（物語・和歌など）研究
オフィスアワー	火・木 昼休み（12:10～13:00）
Eメール	o.matsu@kansai-u.ac.jp
担当科目	知へのパスポート・国語国文学専修ゼミなど

### 主な研究分野

私の研究は、作品そのものへの読解だけではなく、作品が現代までどう読まれ、どう扱われてきたのか、という点（享受・受容）に目を向けたものです。具体的には、『源氏物語』や『伊勢物語』の古い注釈書（主に室町期成立のもの）を中心に扱っています。

平安時代に成立した『古今和歌集』『伊勢物語』『源氏物語』『和漢朗詠集』等の代表的文学作品は、成立以降、後世に大きな影響を与えながら各時代で享受されていきました。その影響は、物語・随筆・和歌・連歌といった文学の領域に留まらず、有職故実・絵画・音楽・能・華道・香道といった多種多様な領域にまで及んでおり、日本文化の諸相と深く関わっていると言えます。そういった作品の魅力を、作品の内部・外部の両面から捉えつつ、平安文学が日本文化に与えた影響を考察しています。

### 担当科目の概要

平安文学作品を読み解く上での、基礎的な知識と技法を学びます。講義では、様々な理論や考え方、ものの捉え方に触れ、文学研究の多角的な視野を養います。演習では、実際に作品を読み進めることによって、実践的・体験的に文学研究の手法を身につけます。いずれの場合も、本文をしっかりと読み込みながら、どこからそれが読み取れるのか、という点を、徹底的に突き詰めます。

平安文学の領域には、非常に膨大な研究の蓄積があります。しかし、あなた自身にしか出来ない読解が、必ず潜んでいます。それを

見つけ出し、自分なりに説明を考え、相手に的確に伝えられるようになることが、最終的な目標です。

### 1年生へひとこと

古典作品の世界は、やればやるほど深く味わえます。入りにくい入口かもしれませんが、一度入ってしまえば、なかなか抜け出せない中毒的魅力があります。平安時代の文学というと、お堅いイメージや難しそうという感覚を持つ人もいるかと思いますが、実際は人間味あふれるものや、くだらない内容、笑ってしまう話など、数多く存在します。そういった当時の人々の息づかいを、作品を通して直に感じられることが、一番の魅力です。

是非私と一緒にのめり込んでみませんか。

### おすすめの図書

○片桐洋一『平安文学の本文は動く』（和泉選書）

現代の我々が見る古典文学作品の本文が、実は、作品成立時から様々な改変された結果の産物であることを示してくれます。研究の入門書として最適の一書です。

○滝川幸司『菅原道真』（中公新書）

道真がどのような人物であったかを、道真の作品から浮かび上がらせていきます。最新の研究成果をもとに、道真の実際の姿を伝えてくれる、非常に内容の詰まった一冊です。

## 岸本 理恵 (きしもと りえ)

専門分野	国文学：平安時代の文学研究
オフィスアワー	(学術研究員のため無し)
Eメール	---
担当科目	知へのパスポート・国語国文学専修ゼミなど

### 主な研究分野

平安時代の文学を研究しています。平安時代の文学は歌物語のように和歌が多く使われるものがあるだけでなく、和歌が表現や発想の基盤になっているものがほとんどで、和歌はとても重要です。そんな和歌ですが、31文字に凝縮された言葉や想いは、現代の私たちが感覚的に理解できるものばかりではありません。それを丁寧に読み解いて少しずつ各々の歌の魅力を体感できてくるのが楽しいと思っています。また、私たちが手に取って読む平安時代の文学作品はどれもこれも、何百年もの間に何回も書写を重ねてきた写本であって実は作者オリジナルのものではありません。丁寧に読み解く作品が、どのように伝えられてきたのか、その間にどのような変化があったのか、そういうことにも興味を持って研究をしています。

### 担当科目の概要

平安時代は現代とは文化や人々の価値観・社会情勢などが全く異なります。そういう時代背景のもとに書かれた作品ですから、単語の意味だけを追って現代語に置き換えてもあまり理解できないのは当然です。当時の人々の時代背景を広く見据え、表現の特色や時代的特徴などを分析しながら、訳したその先にあるものを見出し文学を読み解く方法を考えます。

### 1年生へひとこと

好きな本だけを集中して読むことが文学を学ぶ姿勢だと思いませんか？けれど、幅

広く作品を読むことや社会情勢の変化を知ってその背景を考えること、さまざまな体験をすること、見知らぬ土地へ行ってみることもなども文学研究に意外に役立つものです。生活の変化に柔軟に対応するためにも役立つでしょうから、目の前の課題も大切ですが、そうした経験もぜひ積み重ねてみてください。

### おすすめの図書

#### ○河添房江『光源氏が愛した王朝ブランド品』(角川選書)

作品に出てくる調度品や登場人物の衣装は、それがどのような意味のあるものか、読み飛ばしてもストーリーは変わらないけれど、その人がそれを着ているにはそれなりの意味があるということ、現代の私たちがいかに理解できないか、わかると思います。

#### ○サン=テグジュペリ『星の王子さま』

複数の出版社からそれぞれの訳者の本が出ています。幼い頃に読んだことのある人も改めて読んでみて欲しいと思います。私は文学というものをこの本で知ったように思います。

## 大島 薫 (おおしま かおる)

専門分野	国文学：古代・中世の文化史研究
オフィスアワー	月曜日 2時限
Eメール	ANB33756@nifty.ne.jp
担当科目	知へのパスポート・国語国文学専修ゼミなど

### 主な研究分野

古代・中世の文芸から、日本文化の諸相や、日本人の感性・精神を考えています。古典文学は、それが形成された時代から現代に至るまで、いつの時代にも読み継がれた、つまり「読者」によって伝えられてきました。様々な文芸は、「原作者」が生きた時代だけでなく、それを読み、あるいは変容させつつ伝えてきた人々が生きた時代を照らしだすわけです。私は「文芸が形成された文化的基盤」というより、文化そのもの、そして、その文化を生み出し支えた人々そのものを明らかにしたいと思っています。

### 担当科目の概要

「書物史」と辿って、古代に編纂された文芸から、現代のマンガまで扱います。さまざまな時代に作成された「書物」を読み解きながら、日本文化を考え、日本人の感性を明らかにします。古代における「ものを書く人々」とは、一部の知識階層でした。しかし時代が下るにつれて「書物」を需要する階層は拡大していきました。支配者だけでなく非支配者にも「文字」は拡がりつつありました。日本文化の形成に、非支配者にも及んだ「識字率の高さ」は何をもたらしたのでしょうか。文芸そして「書物」を題材として考えてみたいと思います。

また専修ゼミでは「神さま」「妖怪」「幽霊」といった不思議なモノたちや、「女性」「子ども」「老人」といった存在を取りあげて、日本人の心の拠り所や精神史を明らかにしていきたいと思っています。

### 1年生へひとこと

現代社会を「よりよく生きる」ために、私たちは何を知り、何を学び、何を実践するべきでしょうか。日本には、千年を越える絵画や書物が残されています。私たちは、このモノたちから何を学べば良いのでしょうか。古文が嫌いだった人は「何も学ぶことはない」と答えるでしょうね。でも、このモノたちは、過去から現在に至る様々な時代を生きた人たちの、「伝えよう」とする強い意志によって残されてきました。

私たちの祖先を、そして様々な角度から、私たちの歴史を学ぶ必要性について、一緒に考えてみませんか。

### おすすめの図書

#### ○佐藤弘夫『神国日本』（ちくま新書）

国際問題化する歴史認識に一石を投じる書。わたしたち現代人が、過去から遡って「日本」を学ぶ意義を教えてくれる。著者の意識は、ある時代の一事象を詳説するのみでなく、現代に及ぼす問題をも視野に、通史的に研究対象を捉えることにある。何を求めて学問に向かうのか、考えさせられる。

#### ○『古今和歌集』（岩波日本文学大系ほか、活字本多し）

第一番目の勅撰和歌集。日本文学というより「日本文化」や「日本人の精神」の基層をなすと位置付けられている（私も「好き」です）。

## 山本卓（やまもと たかし）

専門分野	国文学：江戸時代の散文（浮世草子・読本・実録物など）研究
オフィスアワー	木・金 昼休み（12:10～13:00）
Eメール	yamataku@iris.ocn.ne.jp
担当科目	国語国文学専修研究・国語国文学専修ゼミなど

### 主な研究分野

近世（江戸時代）の小説を研究している。殊に浮世草子・読本および実録体小説である。なかでも、最近では赤穂浪士（義士）小説にはまっている。いずれにせよ、近世小説は、前代とは異なり、読者層も広がり、また登場人物も多様になる。

現代にまで続く地下水脈の源流として、いま江戸時代を再認識することは未来の日本のためにも重要なことであろう。

### 担当科目の概要

近世小説を講義する。「井原西鶴『好色一代男』などの浮世草子」「赤穂義士小説一語り継がれる日本の常識―」「江戸の怪談・奇談一人魂は存在する」などを予定している。

### 1年生へひとこと

いま世の中で流行っていることはすぐに古くなります。

日本の古典を学び、人生のいかなる局面にも応用可能な底力としての人間力をつけましょう。何より楽しいですよ。

### おすすめの図書

#### ○フランクル『夜と霧』（みすず書房）

アウシュビッツのユダヤ人強制収容所から生還した精神科医フランクルの回想録です。収容所では、飢餓状態で強制労働させられるため、多くの収容者が栄養失調や病気になる。収容者は極限状態に陥り、その人格は崩れていく。そのような非人間的な生き地獄のなかで、著者フランクルは人間として生き抜いたのである。この書を読んで、わたしは感動のあまり涙が止まらなかったことをいまだに忘れられない。

#### ○山本周五郎『赤ひげ診療譚』（新潮文庫）

志を持って生きることのすばらしさに胸を打たれた。そして、本物の思いを心に抱いて何事かをなそうとする人は、人をも感化するものだと思った。市井の人情譚の中にこのような面が見える。

#### ○野口武彦『忠臣蔵：赤穂事件・史実の肉声』（ちくま新書）

平和な元禄時代、江戸城松の廊下でおこった刃傷事件は、大ニュースであった。野口武彦氏の見事な復元力と語りで、まるでその場に立ち会ったような錯覚に陥るほどの臨場感が堪えられない。

## 関 肇 (せき はじめ)

専門分野	国文学：近現代文学（明治・大正・昭和・平成の文学）研究
オフィスアワー	火・木 昼休み（12:10～13:00）
Eメール	なし
担当科目	国文学史概説・国語国文学専修ゼミなど

### 主な研究分野

近現代文学のなかでも、特に明治後期から大正期にかけての新聞小説とその読者の研究、メディア論などに取り組んでいます。大阪は、近代における新聞の誕生以来、新聞ジャーナリズムをリードし続けた重要な拠点であり、各紙に連載された新聞小説にも話題作がたくさんあります。その魅力を探っていきたくと考えています。

### 担当科目の概要

近現代作家の短篇小説を主に取りあげて、丁寧に読み解いていきます。演習および講義科目では、樋口一葉、夏目漱石、森鷗外、谷崎潤一郎、芥川龍之介など、近現代文学の代表的な作家を取りあげ、文献の調べ方や文学テキストを批評的に読むための基本的な考え方を学習していきます。

### 1年生へひとこと

文学テキストの読み方は、一つの正解があるわけではなく、さまざまな解釈の可能性があるからこそ面白いのです。同時代の資料から、歴史的なコンテキストや文学テキストが生成する現場性を浮かび上がらせることも大切ですし、今日的な視点から新しい読み方を探っていくことも必要です。ただし、どのテキストにも応用可能な万能薬のような研究方法があるわけではなく、一つ一つの対象にそくして自分で適切なアプローチを見出していくしかありません。できるだけ好奇心を旺盛に働かせ、たくさんのお書物を読み、さらに主体的に考える力を養い、自分自身の引き出し

を増やしてほしいと思います。

### おすすめの図書

#### ○柄谷行人『日本近代文学の起源』（岩波現代文庫、講談社文芸文庫など）

<風景><内面><告白><病><児童>などといった、それまで自明のものでされていた文学の基本概念が、近代における見えないう制度として作られたものであることを力強く論じています。きっと知的な刺激を味わえるはずですよ。

#### ○大橋洋一『新文学入門』（岩波書店）

小説を批評的に読むためには、文学理論を知っておくとよいでしょう。この本は、新しい西洋の文学理論を、ユーモアあふれる、とても楽しい語り口で解説してくれています。“理論”というと難しそうですが、難しいことを実にわかりやすく説明してくれている名著ですよ。

## 増田 周子 (ますだ ちかこ)

専門分野	国文学：近現代文学（明治・大正・昭和・平成の文学）研究
オフィスアワー	春：火曜日 6時限、秋：火曜日 5時限
Eメール	nrb49634@nifty.com
担当科目	知へのパスポート・国語国文学専修ゼミなど

### 主な研究分野

日本近現代文学作品研究・伝記研究、関西を中心とした出版文化・文壇研究、雑誌研究、大阪文学研究、モダニズム文化と文学研究、カフェ文化と文藝運動研究、四国地域文学研究、笑いと文学研究、児童文学研究、外国と日本近現代文学研究、日本近代書誌学、作家の未発表自筆物の翻刻・紹介などの研究をおこなっています。

### 担当科目の概要

2年次以降も数多くの近現代作家をあつきたいと考えています。具体的には、宇野浩二、宮本輝、太宰治など語り上手の作家たちや、佐藤春夫、江戸川乱歩、夢野久作、牧野信一などの幻想小説、吉行淳之介、瀬戸内寂聴、河野多恵子、開高健、などの戦後派作家達を考えています。また、火野葦平や西条八十など東アジア諸国と関係の深い作家についても言及します。また、作家だけでなく、絵画と文学、カフェ文化と文学、編集者と文学、外国と文学などのテーマで近現代文学をとらえてみたいと考えています。

国語国文学専修ゼミでは、一人一作品を担当し、作家や作品について徹底的に調査し、レジュメを作成して発表します。その後ゼミでディスカッションをします。作家がその作品を描くにあたって参考とした題材や、時を経て変化する作品評価などを調査し、一見簡単に読める近現代作品がいかに深いものであったかを自分で確かめ、発表し、論述する中で、自主的な研究精神を身につけてほしいものです。

### 1年生へひとこと

白樺派の代表作家武者小路実篤は、「この道より我を生かす道なし この道を歩く」という名言を残しています。大学四年間の間に、ぜひ、自分を生かす、歩み続ける「道」を模索してみてください。

### おすすめの図書

作家の生き様に興味を持つために、『新潮文学アルバム』や、『日本近代文学大事典』（講談社）。作品を手軽に楽しむために、『新潮文庫』や『岩波文庫』をあげます。どうぞ、大学生の間に数多くの作品を読んで下さい。また、哲学書『ソクラテスの弁明』、『バカの壁』もおすすめです。自分の立ち位置を確認し、謙虚に前向きに進んでください。

その他の「おすすめ」として、とにかく遊びましょう、そして語りましょう。文学は人間ドラマです。恋愛、風俗、時代性など様々なことが反映されています。多くの体験をし、視野を広げて下さい。

## 個人研究室一覧

---

- 国語国文学専修教員の個人研究室は、すべて「**法文研究棟 1号棟 2階**」にあります。
- オフィスアワー（特定の時間を設けて学生の質問や相談を受け付けること）は、各教員の個人研究室で行われます。
- オフィスアワーの時間帯でも教員が不在になることもあるので、事前に連絡をとって面会の承諾を得てください。

教員名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
乾 善彦	21号室	月・火 昼休み	inuy@kansai-u.ac.jp
森 勇太	20号室	火・木 昼休み	moriyuta@kansai-u.ac.jp
日高 水穂	18号室	火・木 昼休み	hidaka@kansai-u.ac.jp
村田右富実	22号室	火・金 昼休み	m_mig@kansai-u.ac.jp
松本 大	24号室	火・木 昼休み	o.matsu@kansai-u.ac.jp
岸本 理恵	25号室	(学術研究員のため 無し)	---
大島 薫	23号室	月曜日 2時限	ANB33756@nifty.ne.jp
山本 卓	28号室	木・金 昼休み	yamataku@iris.ocn.ne.jp
関 肇	26号室	火・木 昼休み	---
増田 周子	19号室	春:火曜日 6時限 秋:火曜日 5時限	nrb49634@nifty.com



関西大学文学部総合人文学科

国語国文学専修

2025年度 専修案内

2025年4月1日

編集・発行

関西大学文学部 総合人文学科

国語国文学専修